



ふたかみ NEWS

プチトマト

社会福祉法人 ふたかみ福祉会

583-0856

大阪府羽曳野市白鳥3丁目16-3-102

発行責任者：寺村美知子

編集責任者：関口奈緒美

TEL 072-959-3221

FAX 072-957-1604

Email futakami@hi-ho.ne.jp

<http://www.futakamifukushi.sakura.ne.jp/>

ほまれっこの節分

「悪い子はいないか〜」赤鬼さん、青鬼さんの2匹が登場！

さあ、スタン・ハンセンのテーマ曲をバックにみんなでいっしょに鬼退治だ！



「鬼は外！福は内！」

汗だくで豆（新聞紙ボール）を投げる子のほかただただ眺めている子、逆に鬼が近寄って大喜びしている子など様々です。今年の鬼は優しい女性の鬼さんだったので子どもたちのパワーに圧倒され、気の毒になるほど豆を投げられていました。ごめんね…。

鬼を追い払ったあとはほっと一息おやつの時間。ほとんどの子どもたちは数え年以上に豆をたくさんいただきました。

たくさん豆を食べて健康（まめ）になるぞ〜！

たくさん福も呼び込めたかなあ？



星に語りて

く忘れまい、あの日、今、これからく

阪神淡路大震災から24年、東日本大震災から8年、熊本地震から3年、そして昨年は大阪北部地震や北海道胆振東部地震、そして台風被害など多くの災害がありました。疑似体験が実体験に、支援者が当事者に、ということが近年起こっているのが現状です。

これまでの経験から、障害のある人たちの命の大切さをどう守り支えていくか、ということとをテーマに「きょうされん経営管理者総合研修会」でシンポジウムがおこなわれました。

阪神淡路大震災の当時、精神障害の方は当時、精神手帳も制度もないという状況でした。

また、当時小規模無認可作業所には、国からの援助の手もなく、大災害の中で貧しさ、弱さが露呈した中、「きょうされん」は3日後に障害者センターを開設し、障害のある人たちへ

の支援に手をさしのべてくれたことを実感したそうです。

東日本大震災では、皆さんがご存じのとおり、たくさんの方々が亡くなりました。その人数の多さに「数字」で災害の大きさを表されがちですが、一人一人の命の大切さ、生かされている命を感じる災害であったことを語られました。陸前高田市では、多くの市職員が亡くなり、市庁舎が流出したこと、書類もなくなり、行政機能もマヒしている中で、保健師の全戸訪問や、障害者手帳保持者の安否確認などをおこなっていました。障害を持つていることに負い目があり隠す傾向にあったのか、この調査後に「働きたい！」と作業所へ通う人が増えたとのこと。

この調査活動がなかったら、もしかしたら未だ「座敷

牢」のような生活を続けていた障害者がいたのかもしれない。現在は8年近くたっています。高齡化や経済的状況でいまだ仮設住宅を余儀なくされている方がいるのが現状です。

福島の現状は、「まだ終わっていない」その一言につきま

す。原発事故で避難している方は未だにたくさんいること、避難解除が出たところでも働く場が少ない、などの問題があります。そして大きな問題は、この福島の問題は、人災だということ。

防ぐことができた被害、最小限に被害をおさえるためには今後どうしたらよいのか、経験をもとにたくさんの方の教訓があります。次の災害時に障害のある人たちの命を守るために教訓を活かす活動をおこなっていききたいと思えます。

(関口)

事例検討と交流

2019年1月19日にNP法人福祉広場の池添素さんを招いて、松原のピヨピヨ保育園との合同の事例報告会がありました。

ピヨピヨ保育園からは、4歳児クラスの報告。ハピバールから新しい場所で新たな自分づくりの実践の報告をしました。

ディスカッションでは、互いの保育や実践の悩みを話し、池添さんから「発達の節目について」「発達は集団があつて育まれる」ことをアドバイスしていただきました。

今回の研修で、保育について、聞くことができ、職種は違っても同じような悩みを抱えていて、年齢も場所も違いますが、人は常に発達している事を感じました。保育園での事、小学校や中学校などの過程があり、作業所にやってきた仲間の姿を感じた研修でした。

(大伴)

安居楽業ゼミナール

2月15日、16日に東京の全水道会館で行われたきょうされん主催の『第2回安居楽業ゼミナール』に参加しました。ゼミナールは1日目が藤井克徳さんの基調報告に始まり、熊谷晋一郎先生と大西連さんの講演、2日目は二組の実践報告を聞いた後にグループ討議を行い、午後からは「きょうされんはなぜ、ともそだち・支える実践にこだわるか」というテーマでシンポジウムを行いました。

者の権利に関する条約の拡充に向けて働きかけていることが重要であるという事を報告されました。

熊谷先生の講演は、『暴力と排除』がテーマで、津久井やまゆり園事件で、「自分もあななっていたかもしれない」と自分を重ねていた人が、被害者側だけでなく、加害者側にも存在していたことから、被害者側と加害者側、どちらも排除せずに優生思想と闘う事は可能なのか問いかけ、暴力の背後にある要因にはどんなものがあるのかを学びました。

2日目の実践報告では、埼玉県と東京都の二つの支援センターの実践をもとにグループになって討議を行いました。グループ討議の中では、日中作業所、グループホーム、相談支援など様々な職場で働く人達の話聞き、それぞれの職場での実践や悩みなどを話しあう事が出来ました。

(波多江)

報酬改定後の今・・・

1月30日(水)和歌山ビック愛にて行われた、2018年度第34回近畿社会就労センター職員研修会に参加しました。

内容は、「基調講演」「現場からの報告」「パネルディスカッション」の三部構成です。

全国社会就労センター協議会会長阿由葉寛氏による基調講演では、セルプとしては「目標工賃達成加算が改正になったが、高工賃達成できている事業所への評価は必要だが、重い障害のある方を受け止めている作業所の報酬が減らないように訴えかけていく」ことを話されていました。

仲間の工賃を守る為に、私たちが出来ることは何なのか考えなければならぬと思えました。

現場からの報告は三施設からそれぞれの課題を出されていました。

共通して取り組まれている事業内容は「施設外就労」です。市からの依頼や、年間契約を交わす事で工賃保障が出来ていると報告されていました。

課題としては、スーパー閉店後の清掃は、時間が遅いため保護者の理解が必要不可欠なことが出されました。

放置自転車の回収・修繕・販売なども取り組まれている事業所の報告もありました。

パネルディスカッション「3年後の見直しに向けて私たちはどう取り組むか」では、はびきの園でも今後の課題になっている「仲間の高齢」が参加されていたほとんどの施設が抱えている課題だと知り、高工賃を目指す反面、仲間の高齢化は欠かせない課題の為、どのような工夫をしていけばよいのか今回の研修に参加させていただき改めて考えていきたいと思えました。

(山田)



作品介绍

ハピバールのなかまの作品を毎月紹介していきます♪



『あき』

「マルマルマル～」と不思議な発音の丸をよく描いている。
プリンセスが好きなのに、作品の絵は渋い。



『線』毎日線を描き続ける事にこだわっていて、毎日たくさんの作品を生み出しています。

チャリティーコンサート -2019-

2019年6月8日(土)開催

会場 * LIC はびきの ホール M

開場 * 14:30

開演 * 15:00



1部： 障害のある仲間と
ボランティアのうたごえ
2部： 芥川高校和太鼓部

春バザー 日お知らせ

前月号と、日程が変更しています

2019年4月27日(土)

場所：はびきの園

羽曳野市駒ヶ谷106番地1

※物品提供については、はびきの園への持ち込みのみとさせていただきます。

今回は引き取りに伺うことができませんのでご了承ください。

【主催・問い合わせ先】

ふたかみ福祉会後援会(法人本部)

TEL:072-959-3221 FAX:072-957-1604

3月

物品販売 ☆ イベント

はびきの園

17日(日) 葛井寺手作り市 10:00~15:00

18日(月) 葛井寺販売 10:00~12:00

25日(月) 道明寺天満宮 10:00~12:00

28日(木) 滝谷不動産販売 9:00~14:00

ハピバール

17日(日) ふれあいひろば
(道明寺商店街) 10:00~15:00

フュー
マーケット

出展者さん
募集!

4月14日(日)

出店時間：10:00~15:00

1ブース(約2m×2m)

1,000円



【18年度2月】
後援会入会及び更新の方々
(敬称略)

(敬称略)

大伴改太 石本悦二 以上4口
中筋美弥子 宮崎孝代 道瀨吉則
井川たつ子 以上1口

【ボランティア】
であい 様

畑英作 様

細川直幸 様

松倉和代 様

【アルミ缶回収】
870kg

ありがとうございました。

編集部の独り言

ようやく暖かい春の日差しが差し込み、つい先日まで寒さで震えていた庭のパンジーやプリムラが微笑んでいる様に咲いています。
冬の間は家人同様に炬燵に入り浸っていた犬もベランダで日向ぼっこを楽しんでいます。
こんな穏やかな日々が続きますようにと願う早春の今日この頃です。
(宮崎)